

**Q19 学校復帰を始めた時
どのようなことに配慮して支援すればよいのですか。**



不登校の状態にあった児童生徒が学校復帰を始めた時は、どの子も清水の舞台から飛び降りるような気持ちで登校するものです。心臓が破裂しそうなくらい緊張しています。学校復帰への不安感を受け止め、支えながら安心して登校できる指導体制づくり、自信をはぐくめる居場所づくり、段階的・計画的な支援が大切です。

不登校の状態になった児童生徒が学校に復帰しようとした際に、再び不登校の状態に戻ってしまうことがあります。集団生活や学習がうまくいかず、自分に自信を失ってしまうことが大きな要因である場合が数多くあります。平成15年度から3年間、文部科学省の研究開発学校の指定を受けた岐阜市立藍川中学校・藍川東中学校では、より確実な学校復帰を目指す分教室の在り方について研究実践を積み重ねました。この研究において、大切なキーワードだったのが、「集団生活への自信」と「学習への自信」です。学校では、集団生活への適応と、学習への適応を丁寧に促し、児童生徒本人が自信を取り戻すことができるよう支援する必要があります。

- 1 児童生徒が自分の不安やつらい気持ちを汲んでもらえると感じるような言葉がけや対応が大切です。
 - ・「おはよう。(こんにちは)元気?」「無理していない?」「困ったことはない?」「しんどかったらいつでも言っておいで。」など、あなたのことを心配しているよというメッセージが伝わる言葉がけに心がけましょう。
- 2 「学校に来てよかった。」「学校は楽しい。」ということをさりげなく、少しずつ表すことが大切です。
 - ・所属学級の児童生徒たちが取り囲んで騒ぐことは避けましょう。
 - ・たくさんのかかわりは止めましょう。安心してかかわることのできる一人の人から始めましょう
 - ・「頑張れよ。」「明日も来いよ。」などという言葉がけは止めましょう。
教職員の目から見ると他の児童生徒と変わりなく見えても、不安の裏返しで無理して頑張る子もいます。本人の負担になるような言葉がけや対応は避けましょう。
- 3 再登校した児童生徒が安心できる環境をつくり、その子の意欲を見守り育てる指導体制をつくりましょう。

(1) 最終的に教室が居場所になるような「てがかり」をつかみましょう。

まずは、相談室や保健室、校内適応指導教室等、別室登校から始めましょう。この場合、自己選択と自己決定ができるよう、いくつかのプランを提案して決めさせることが大切です。場合によっては、最初から教室登校を始めたいと言う子もいます。チャレンジさせて無理な場合は、再度別室登校を勧め、できるところから始めることが大切です。

別室登校時の配慮すべきポイント

- ア 支援の糸口となる一人の大人との人間関係をつくる。
- イ 本人の願いや十分に満たせていない基本的欲求を明らかにするための話し合いをもち、支援の方針を立案する。
- ウ 児童生徒が「家庭以外にも安心できる『生活の場』があるのだ」と感じられるように、生活の場の拡大を支援する。
何をさせるのかではなく、何ができるのかを探し、とりあえずの居場所として「好きなことを」「好きな時に」「好きなだけ」できる環境を作ることから始めましょう。それから徐々に小さなステップでルールと一緒に作りましょう。

(2) 話のできる大人を二人つくる。

「先生は忙しそうだから、今は先生の所へ行こう。」と思えるようにする。

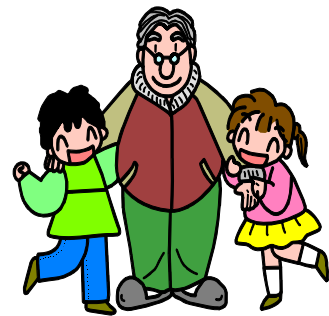
(3) 話ができ遊べる二人組を複数つくる。

学級でのよりよい人間関係づくりの促進(例：構成的グループエンカウンター等)
二人組ができたら、そのペアをもとに4人組に拡大する。

(4) 複数の思考・行動・感情が選べるように支援する。

(人間関係を拡大する力を育てる)

S S T (ソーシャルスキルトレーニング) の実施



(5) 将来の願望を明確にして実践する。

長期的な展望に立ち現状の自己評価を確かめ、
新たな計画を立て、その実践に必要な支援を実施する。

(6) アクセルとブレーキを使いこなす。

「今踏ん張らせること」と「今は許していてもよいこと」をわきまえ、必要に応じた教育相談的なかわりを行う。

4 学習への自信がもてるよう、支援します。

- ・時間割を工夫し、相談室等で教員による学習指導を受けることができるようにします。県内の多くの学校で、こうした努力が進められています。
- ・「その児童生徒の学習への自信や意欲をはぐくむ」、「学級復帰を果たした際に必要と思われる学びを重ねる」という観点から、「基礎的な学習内容」や「学び方」が身に付き、学ぶ意欲が高まるよう、その子の実態にあった学習内容を、その子と共に考え、段階的に挑戦できるようにします。